



3年生の皆さんへ

第26号
2016年2月24日
この通信は生徒と保護者の皆様に向けて、編集・発行しています。

卒業を間近に控え、今、どんな気持ちですか？新しい道へ進むことへの期待と不安を感じている人もいるでしょう。公立高校の受検を控えて、焦りを感じている人も多いと思います。最後の一人の進路が決まるまで、全員がやるべきことをきちんとやれる3年生であることを期待しています。

先日、みんなの卒業を記念して、記念樹を植えるという話がありました。君たちが去った旭中を今はまだ想像できませんが、きっとその記念樹の成長をみる度に私は、君たちのがんばっている姿を思い浮かべらるだろうと思います。どんな記念樹が植えられるか、楽しみです。

さて、私が、中学生だったころ、今のみんなと同じように、進路選択を経験しました。自分の進路を自分で決めることは、当時の自分には、とても重圧でした。しかし、だれかに相談をすると自分の気持ちが揺らいでしまうと考えた私は、あまり周りの人には相談せず、自分で悩んで、最後は自分で決めました。今思えば、多くの人意見を聴いてから判断しても良かったと感じますが、当時の自分は、未熟で私の強い人間だったと思います。しかし、自分自身で決めたことなので、後悔は少しもしませんでした。そして進学した高校は「岐阜県立加納高校」という高校でした。2015年に、創立100周年を迎える伝統ある高校です。そんな加納高校には、「白梅精神」という校訓があります。「白梅精神」とは、寒苦（冬の厳しい寒さ）に耐えて咲く白梅のごとく、つらいことに決してくじけず、困難を乗り越えてこそ、美しい花を咲かせられるという意味です。私自身が、今でも忘れることのできない大切な教訓です。

世の中には、ほしいと願っても、簡単に手に入るものばかりではありません。また、簡単に手に入るものは、あなたにとって本当に価値のあるものであるとは、言い難いと思います。苦しんで、苦しんで手に入れたものはあなたにとっての宝物です。これからの人生で、きっといくつかの困難・苦難に出会うでしょう。逃げ出したいくなる日もあるでしょう。しかし、そんなときこそ、じっと我慢し、信じたことをやり続けた先によく自分だけの宝物に出会うことができます。自分は、そう信じて生きてきました。

「白梅精神」に表されるように、実際に加納高校にはたくさんの白梅が植えられていて、春になると、あたり一面に真っ白な花が咲き誇り、毎年、生徒たちの旅立ちを見守っていました。

みんなの卒業式まで本当にあとわずかです。これまでの中学校生活で学んだことや経験したこと、受検生として、頑張ってきた努力の日々が、ついに花開く時がやってきました。

卒業式では、旭中学校の卒業生にふさわしい、堂々とした姿がみられることを楽しみにしています。

3年G組担任 上田 真也